

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19592481

研究課題名（和文） 3方向効果のある透析看護職向け患者教育学習システムの開発と評価

研究課題名（英文） The development and education of the learning system for the dialysis nurse about the patient education with three-way effect.

研究代表者

岡 美智代 (OKA MICHIO)

群馬大学・医学部・教授

研究者番号：10312729

研究代表者の専門分野：看護学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：患者教育、医療コスト、看護学習システム、腎不全看護、行動変容、慢性疾患、EASE プログラム

### 1. 研究計画の概要

本研究の目的は、患者、看護職、医療コストという3方向に効果のある、透析看護職向けの患者教育プログラムを学ぶための学習システムの開発と評価である。

3方向効果の内、患者側効果とは、セルフマネジメント行動の向上、自己効力の向上などであり、看護職側効果とは、行動変容に対する知識・能力の向上、教育能力・コンピテンシーの向上などであり、医療コスト効果とは患者のセルフマネジメント向上による透析回数の減少、薬剤使用、看護職が患者教育に費やす時間の減少などのことである。

### 2. 研究の進捗状況

(1) 患者に関する研究：EASEプログラムの効果について先行文献から分析した。その結果、EASEプログラムに関する論文は94論文であり、効果は88.6%であることが明らかになった。メタ分析からもEASEプログラムの方法論である認知行動療法が効果的であることが確認された。さらに、近年透析患者だけでなく慢性腎臓病（CKD）患者のセルフマネジメントが重要視され

ていることから、CKD患者におけるEASEプログラム（実験群）と従来の患者教育（対照群）の効果について比較分析することを目的とした研究を実施した。介入群は18名、対照群11名であった。結果として、群内比較、群間比較とも1/Cr, eGFRともに統計的有意差は認められなかった。しかし、介入群のセルフマネジメント行動は、対照群では変化がなかったが、実験群では介入前より後の方が有意に向上した。自己効力感は介入群における介入前後の中央値は上昇しており、対照群は低下していた。EASEプログラムのセルフマネジメント行動の向上が見られたため、対象者を増やしたり、EASEプログラムを正確に実施することにより、今後、検査データの改善が期待できると思われる。

(2) 看護職に関する研究：看護職に提供する学習システムの定義を明らかにするために、先行文献から透析看護における患者教育の定義と必要な要素を明らかにした。さらに、看護者向けの患者教育学習システムを開発する前段階として、看護師にEASEプログラムを学んでもらい、どのような方法が学びやすいかを明らかにするために、看護師に対してEASEプログラムの説明

会を開催して、実際に EASE プログラムを実施してもらった。

(3) 医療コストに関する研究：CKD ならびに透析患者に対して看護職が行う患者教育のセルフマネジメント支援技術の概要についてまとめた。その結果、CKD 患者に EASE プログラムを活用すれば、年間 400 億円の医療費削減が期待できることが明らかになった。さらに CKD 保存期患者に EASE プログラムを行い、EASE プログラム介入における費用分析を行った。18 例の結果、12 週間の EASE プログラムにかかる CKD 患者 1 人あたりの平均費用は、19,387 円であった。前述の通り、患者に関する研究では、EASE プログラム群におけるセルフマネジメント行動の向上が見られたため、今後透析治療の延期が可能となれば、直接的医療費はもちろん、間接医療費も軽減し、医療費削減への貢献が期待される。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。その理由は以下の通りである。

3 方向効果の内、患者側効果として、透析患者には EASE プログラムが 89%近い効果があることが明らかになった。また、CKD 患者のセルフマネジメント行動は、従来教育群である対照群では変化がなかったが、EASE プログラム群は介入前より介入後の方が有意に向上することが明らかになったからである。

しかし、看護職側効果では、看護師に EASE プログラムを学んでもらっているものの、学習システムに必要な要素は明らかになっておらず、この点はやや遅れているといえる。

医療コストに関する研究では、CKD 患者に EASE プログラムを活用すれば、年間 400 億円の医療費削減が期待できることが明らかになった。以上のことから、看護職側に関する研究以外は、患者側・医療者側の研究共におおむね順調に進展していると判断できる。

### 4. 今後の研究の推進方策

看護者側の効果を明らかにする研究を中心にしたい。具体的には、看護者向けの患者教育

学習システムを開発するために、実際に EASE プログラムを実施した看護者に対して半構成的面接を行い、その内容からシステムに必要な抽出する。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 27 件)

① 恩幣(佐名木)宏美、岡美智代、上星浩子、高橋さつき、透析看護における患者教育の定義と必要な要素の検討、THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL、50(2)、145-150、2009、査読有

② 岡美智代、慢性腎臓病患者のセルフマネジメント教育、EB Nursing、9(1)、68-76、2008 査読無

③ 恩幣(佐名木)宏美、岡美智代、山名栄子、李孟蓉、柿本なおみ、後藤真希、高橋純子 EASE プログラムに関する文献研究、日本腎不全看護学会誌、10(2)、80-85、2008、査読有

[学会発表] (計 21 件)

①高橋 さつき、岡美智代、恩幣 宏美、杉田 和代、外来で行う慢性腎臓病 1~4 期の個別教育の実施率と、実施に影響を及ぼす“構造”、第 29 回日本看護科学学会学術集会、2009 年 11 月 28 日、(千葉)

[図書] (計 2 件)

①岡美智代 他、認知行動療法の技法と臨床、日本評論社、290-297、2008

[その他]

ホームページ

<http://oka.dept.health.gunma-u.ac.jp/~michiyo/>